

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京科学大学(医歯学系) 前期日程

科目	物理
----	----

## 総括

試験時間	2科目 120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>	<p>昨年度と同様に、大問2題の出題。今年は医学科が全問を、歯学科と保健衛生学科が第1問及び第2問問3までを解答する形式であった。総設問数は昨年から6つ増えて30。必要な計算量は昨年に比べて増加した。第1問で鉛直に対して傾いた側面に液圧が加わる題材が目新しく、第2問は本学志望者であればほとんどが経験しているであろう題材であった。合格ラインは昨年より下がると思われる。</p>
<特記事項・トピックス>	<p>第1問は液圧と浮力の考察。鉛直に対して傾いた側面として平面及び曲面を取り上げており、いずれも区分求積または積分が必要となる。第2問は様々な回路に関する出題 (RC、2R と L の並列に R を接続、L と C の並列に R を接続、LC、RC 交流)。問4で横軸に対数目盛を用いている。</p> <p>解答用紙はB4版で、ほぼ1題あたり2枚与えられる。例年解答欄が指定され、解答に至る過程の記述も要求される。グラフ作成は例年のように出されており、今年は5題出題された。</p>
<合格への学習対策>	<p>ここ数年の流れでは、高校過程における基本的な内容・題材から多く出題されている。合格には高得点が必要であり、まずは典型問題をミスなく解く力をつけることが大事になる。その上で、少々レベルの高い問題を経験しておくともよいであろう。微積分や微小近似を用いた考察にも慣れておきたい。グラフや描図も毎年のように要求される。また、例年解答用紙には設問によって論述のスペースがあり、計算過程等をコンパクトに記述する訓練も必要である。</p>

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	物理基礎 物理	液圧、浮力	物体に加わる浮力は物体上面と下面の液圧の合力であるという説明がよくなされる。本問では鉛直に対して傾いた側面が平面及び曲面の場合に加わる液圧まで考察させている。(6)(9)(13)では区分求積または積分が必須。(10)は微分係数をあらわに使う。(11)は単位法線ベクトルの概念が有用。(8)(14)は液圧の合力が浮力公式と一致すれば正答チェックになる。	標準
2	記述 + グラフ 作成	物理基礎 物理	直流回路、過渡現象、 電気振動、交流回路	問1はRC回路。問2は2RとLの並列にRを接続した回路。問3(3)まではLとCの並列にRを接続した回路。ここまでは過渡現象のグラフ作成まで含めて基本で、確実に得点したい。問3(4)以降は電気振動の基本題。(5)の電流変化に関する題意が取りにくかったかもしれない。問4はRC交流回路の基本題。(3)の横軸対数目盛に関する出題は戸惑った者も多かったであろう。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。